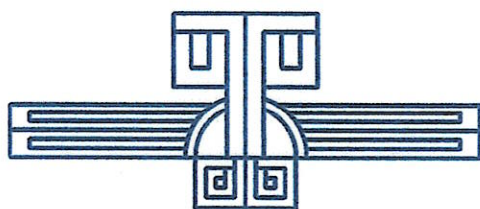


光記念館年報

第3号

平成14・15年度

2004.3



光記念館

Hikaru Memorial Museum

ご挨拶

此の度、光記念館年報第3号（平成14, 15年度）を刊行致します。

当館は平成11年4月に開館してより、6年目を迎えました。

特別展事業においては、「浮世絵展」「縄文の耀き展」「今井俊満展」「北斎と広重展」「古代マヤ文明展」「人間国宝芹沢銈介展」を開催してまいりました。

また、学習支援活動においては、一つ目に文部科学省科学系博物館教育機能活用推進事業として、恐竜の生きていたジュラ紀をわかりやすく紹介する「みんなで知ろう！ジュラシックワールド」と称した教室を開き、学校との連携をはかった教育普及活動に力を入れてまいりました。二つ目に、文化庁の文化型芸術拠点形成事業として、小・中学校や社会福祉施設に出向いて実物の浮世絵版画を展示・解説する「出張美術館」を行ないました。

これに加え、国宝をはじめとする美術・博物資料の収集保管、調査・研究を行なっております。

今後とも、地域社会に密着した特色のある総合博物館として、事業や施設の充実を図ってまいりたいと存じます。

ここに、関係機関・関係者各位に衷心より厚く御礼を申し上げますとともに、今後の当館の運営・事業におきまして格段なる御指導と御鞭撻を賜わりたく、謹みてお願い申し上げます。

平成16年3月31日

光記念館

館長 岡崎 功

光記念館の理念

1、テーマ「光」

地球環境との対話が叫ばれる今日、生命エネルギーの根源である「光」をテーマに博物館活動を行なう。

「光」のテーマは広範囲である。太陽からの光、自然からの光、化石等過去の物質からの光、人工的な過去の文明からの光、また、芸術・美術、人の心からの光など。こうした人類に向けて放たれる光を多方面にわたり

- ① 資料収集・保管
- ② 調査研究
- ③ 資料・収蔵品の紹介・展示
- ④ 教育普及活動

することにより、人類・社会の精神的・物質的な向上を目指すものとする。

来館者が、長い年月の中で地球や人類が育んできた歴史をたどり、自然と人類が残した優れた美・芸術・文化に触れることにより、今後の生き方、未来へ歩む方向性を見出せるような活動を展開して行く。

2、飛騨地域は、特有（古生代から新生代）の地層・地質・岩石・化石等を保有している。そこに住む人々の歴史と伝統文化を紹介することにより、地域に融和した文化環境の向上を目指す。

地元、飛騨地域（高山市を含む）を中心に、岐阜県及び中部地区に貢献できる社会教育施設として、博物館活動を展開して行く。

3、老若男女を問わず、子供から大人まで気軽にご来館いただける公共施設として、生涯教育に役立つ総合博物館として、特に、今後の未来を担う青少年の知育向上のための教育施設として広く一般に利用していただくことを目的とする。

4、世界古代文明の遺物や優れた芸術品を展示・紹介することにより、国際交流の推進並びに地域社会の国際化にも貢献する。

そのため積極的に国際的な企画展を実施して行く。

I、施設概要

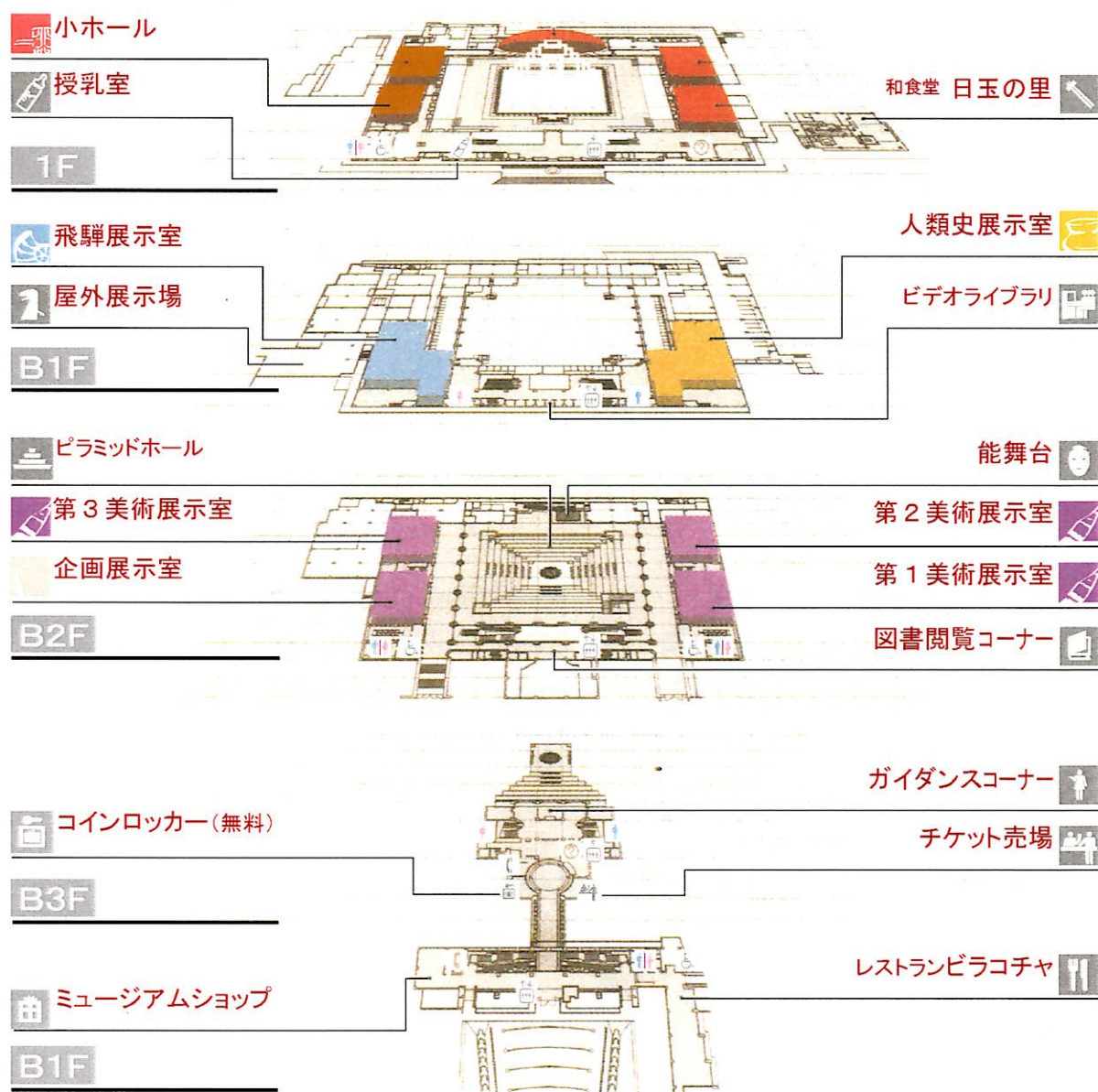
《建築概要》

所在地	岐阜県高山市中山町175
地区・地域	第2種住居地域 教育文化地区
工 期	着工：平成 5年6月23日 竣工：平成10年2月27日 開館：平成11年4月 8日
敷地面積	75,753.75m ² (22,915坪)
建築面積	14,097.00m ² (4,264坪)
建ぺい率	19.78% ≤ 48.17% (地区計画)
延床面積	32,668.81m ² (9,882坪)
容積率	45.84% ≤ 76.34% (地区計画)

《施設の規模》

駐車台数 来館者用	乗用車 105台
	バス 27台
	職員用 乗用車 66台
美術館棟	
見学ゾーン面積	1階 3,750.62m ² (1,135坪)
	地下1階 2,812.12m ² (851坪)
	地下2階 7,013.97m ² (2,122坪)
	合 計 13,576.71m ² (4,107坪)
能舞台	1舞台
小ホール	108席
収蔵庫面積	1,534.62m ² (464坪)
図書室	30席
レストラン「ビラコチャ」	108席
和風レストラン「日玉の里」	82席 (団体予約専用)
立礼席	32席
美術館棟の外形	101m×86m
外部ピラミッドの高さ (中央床面より)	20.7m
内部ピラミッドホールの天井高	21.7m
(地下2階フロアより)	
可変床面積	1,353m ² (409坪)

館内ご案内図



沿革

平成 14 年度

期日	行事	摘要
3月26日	特別企画展開催 (～5/12)	『江戸に爛漫 浮世絵の華』
	企画展開催 (～9/2)	『化石の王様！世界のアンモナイト展』
5月 4日	演奏会	ハンドベル・ミュージックベル演奏会 高山ベルミクスチュアーズ
5月12日	企画展終了	『江戸に爛漫 浮世絵の華』
5月21日	報道関係者内覧会	
	特別企画展開催 (～9/1)	縄文の耀き～三内丸山と飛騨～
	美術展示室常設展	テーマ『春』
6月 2日	特別講演会	文化庁文化財部記念物課 文化財調査官 岡田康博先生
8月10日	演奏会	パンフルート演奏会 シリンクス
8月11日	演奏会	//
8月18日	特別講演会	エジプト・アラブ文化研究会 副会長 村治笙子先生
8月25日	恐竜ゼミナール	放送大学教授 濱田隆士先生
9月 1日	特別企画展終了	縄文の耀き～三内丸山と飛騨～
9月 2日	企画展終了	『化石の王様！世界のアンモナイト展』
	「エクアドルの夕べ」 開催	会場：高山市文化会館 後援：光記念館
9月10日	報道関係者内覧会	
	追悼企画展 (～12/23)	『今井俊満展 ～花鳥風月～』
	美術展示室常設展	テーマ『秋』
	企画展開催 (～H15/5/18)	『魚竜・魚類展』
10月2日	特別展示 (～12/23)	速水御舟「牡丹睡猫」
11月2日	公演	青森県郷土芸能 えんぶり
11月4日	特別講演会	理学博士 松井孝典先生『宇宙の創成と地球の誕生』
12月3日	美術展示室常設展	テーマ『冬』
12月23日	追悼企画展終了	『今井俊満展 ～花鳥風月～』
	特別展示終了	速水御舟「牡丹睡猫」
2月26日	報道関係者内覧会	
	特別企画展開催 (～5/18)	『北斎と広重展 ～天才浮世絵師とその一門』
	美術展示室常設展	テーマ『春』
2月27日	演奏会	合唱：栃木県 オーバー・ザ・クライシス・ブラザーズ

平成 15 年度

期日	行事	摘要
4月8日	特別展示（～5/11）	速水御舟「牡丹睡猫」
5月4日	演奏会	合唱：岐阜県 あかね合唱団
5月18日	特別企画展終了	『北斎と広重展～天才浮世絵師とその一門～』
	企画展終了	『魚竜・魚類展』
5月27日	報道関係内覧会	
	特別企画展開催（～9/2）	『古代マヤ文明展～刻まれた王朝の歴史』
	企画展開催（～10/23）	『与那国島海底遺跡展』
	美術展示室常設展	テーマ『夏』
5月31日	特別講演会	マヤ研究家 染色家 児島英雄先生『マヤ石碑の 拓本解説』
	「メキシコの夕べ」開催	会場：高山市文化会館 後援：光記念館
6月22日	特別講演会	東京大学名誉教授 大貫良夫先生『中南米の古代 文明』
7月19日	企画展開催（～H16/9/5）	『恐竜足跡展』
8月10日	特別講演会	文化庁文化財部記念物課 文化財調査官 岡田康博先生『縄文の耀き』
8月17日	演奏会	カルテット（宝塚アンサンブル）
8月24日	恐竜ゼミナール	放送大学教授 濱田隆士先生
9月2日	特別企画展終了	『古代マヤ文明展～刻まれた王朝の歴史～』
9月11日	報道関係内覧会	
	特別企画展開催（～9/2）	『人間国宝 芹沢銈介展』
	美術展示室常設展	テーマ『秋』
9月30日	特別展示（～11/9）	速水御舟「牡丹睡猫」
11月4日	開館5周年特別企画	能楽公演 能『猩々』『猩々乱』 狂言『栗焼』 『口真似』

Ⅱ、平成 14 年、15 年度事業概要

A. 展示

[1] 常設展

(1) 古代からのメッセージ

イ. 展示目的

日本と世界の遺跡・遺物について、地理・歴史的な角度から検討し、疑問を投げかける展示を試みた。

ロ. 展示内容

日本と世界の遺跡・紋様の類似点等をパネルや映像等で紹介し、日本と世界のまだ解明されていない遺跡や遺物も検索形式で紹介している。また、一部を企画展示室として開放し、岐阜県内の遺跡をはじめ、マヤの拓本展等を開催した。

* 展示手法

- 実物資料、グラフィック、映像、検索映像。

〈映像小ホール〉

120インチモニター1台と椅子108席を設置している。

夏季を中心に監修の先生方並びに当館学芸員による特別講座を開催し、展示の補足や学習の補助を行なっている。

(2) 飛驒展示室

イ. 展示目的

現代の人類社会を支える自然が現在の姿になるまで、人類を含む全ての生命が果たしてきた役割と環境の変化を紹介する。

いつの時代においても1つ1つの生命には役割があり、一切無駄無く配置されている。生命と環境の長い歴史と積み重ねを知ることにより、自然をかけがえのないものとして再認識し、慈しむ心を育てる。

ロ. 展示内容

飛驒は古生代の福地累層、中生代の手取層群、新生代の火砕流堆積層等各年代の地層や岩石が露出していることで有名である。

飛驒の実物資料を通して、地球の自然界における普遍真理を捉え、一切無駄無く培われた生命の役割と命の尊さ、環境との関わり等を紹介している。

展示は飛驒産出の化石と考古資料を中心に古生代から現代までの自然史と生命の関わりを提示している。

展示には命と心の大切さを伝えられるよう、復元模型やジオラマに力を入れた。特に植物ジオラマは葉脈に至るまで、化石を元に忠実に復元している。

〈輝く生命の星〉

導入部に宇宙から見た地球を表現し、自然の美しさと思議さを提示しながら視点を飛驒に絞っていく。

* 展示手法

- 地球模型、100インチモニター映像。

〈古生代〉

飛驒にある古生代の地層から、サンゴをはじめとする海の生き物の化石が数多く発見されている。

これらの原始生物は何億年もかけて大量の酸素を放出し、生命の星とよばれる地球の基礎となる、オゾン層や大気等の環境をつくったといわれている。

また、現在の珊瑚礁のように、古生代のサンゴと藻類等も理想的な共生関係を保って繁栄を遂げたことを紹介している。

* 展示手法

- 実物資料…海生動物化石・岩石。
- 復元模型…実物資料を用いて、福地累層・デボン紀岩盤の一部を原寸大に復元した。
- ジオラマ…デボン紀・石炭紀・二畳紀の海の様子を忠実に復元した。
- ミラービジョン、映像。

〈中生代〉

飛騨地域にまたがる中生代の地層「手取層群」は恐竜や植物化石を多く産出することで知られている。海から陸、湖、川、空へと生活環境を広げ、動物と植物が共生しながら繁栄を遂げ、中生代の生活環境をつくったことを伝える。

* 展示手法

- 実物資料…陸上植物化石・海生動物化石等。
- ジオラマ…手取型植物群を原寸大で葉脈に至るまで、精巧に復元した。
- 恐竜模型…手取層群から発見されたスギヤマリュウ・カガリュウの原寸大復元模型。

〈新生代〉

飛騨の山々は、新生代の活発な火山活動とプレートの活動によって形成されたといわれている。大地の巨大なエネルギーを地形の痕跡等から伝える。

また、新生代は人類が出現し、活動を始めた時代でもある。

人類が作った道具を地球史46億年の産物である岩石、粘土、木の素材表現をするという視点で展示し、自然の産物を借用して人類は営み始めたことを伝えている。自然に適応するために道具を作り、自然素材の特性を活かして繁栄を遂げた人類と自然との共生を紹介する。

* 展示手法

- 実物資料…石器、土器、岩石。
- 映像模型…噴火と再生の様子を紹介。

〈大自然の恵み〉

視点を飛騨から世界に広げ、地球的規模で繰り広げられた環境の変遷や生命の果たした役割を振り返り、自然界の偉大さと恩恵を再認識する。

日本は酸性土壌で化石として残りにくいため、ボリビアの三葉虫化石を歴史の証言者として展示している。

* 展示手法

- 実物資料…ボリビアの三葉虫化石。
- 映像…60インチモニターで自然界の恩恵を紹介。

〈学習コーナー〉

展示を振り返り、楽しみながら復習をする場とする。

* 学習手法

- Q & A コーナ…タッチパネルモニターで、展示内容を題材にした3択5問のクイズを行なえるようにし、展示の復習を促している。
- 体験学習室…多目的スペース。実物資料に触れる、企画展等を計画。
- 古生物スタンプ…展示室内ジオラマをイラスト化した用紙に古生物のスタンプを押して、持ち帰れるようにしている。

<飛騨展示室実物資料>

床板サンゴ 合計：8点

分類	学名	産地	点数	備考
床板サンゴ	<i>Squameofavosites</i> cf.	岐阜県上宝村福地	1	
床板サンゴ	<i>Squameopora takarensis</i>	岐阜県上宝村福地	1	
床板サンゴ	<i>Heliolites</i> sp.	岐阜県上宝村福地	1	
床板サンゴ	<i>Pachyfavosites</i> sp.	岐阜県上宝村福地	1	
床板サンゴ	<i>Aulocystis</i> sp.	岐阜県上宝村一重ヶ根	1	
床板サンゴ	<i>Lamellaeoporella?</i> sp.	岐阜県上宝村福地	1	
床板サンゴ	<i>Favosites</i> sp.	岐阜県上宝村一重ヶ根	1	
床板サンゴ	<i>Thamnopora</i> sp.	福井県和泉村上伊勢	1	

四放サンゴ 合計：10点

分類	学名	産地	点数	備考
四放サンゴ	<i>Cystiphyllodes</i> sp.	岐阜県上宝村	1	
四放サンゴ	<i>Cystiphyllum</i> sp.	岐阜県上宝村福地	1	
四放サンゴ	<i>Rugosa</i>	岐阜県上宝村福地	1	
四放サンゴ	<i>Aphyllum</i> sp.	岐阜県上宝村福地	2	
四放サンゴ	<i>Tipheophyllum</i> sp. indet.A	福井県和泉村上伊勢	1	
四放サンゴ	<i>Tipheophyllum</i> sp.	岐阜県上宝村福地	2	
四放サンゴ	<i>Tryplasma</i> sp.	岐阜県上宝村一重ヶ根	1	
四放サンゴ	<i>Zaphrentis?</i> sp.	岐阜県上宝村福地	1	

デボン紀 合計：15点

分類	学名	産地	点数	備考
頭足	<i>Fukujiceras</i> sp.	岐阜県上宝村福地	1	
頭足	<i>Buchanoceras</i> sp.	岐阜県上宝村福地	1	
頭足	<i>Ormoceras</i> cf. <i>japonicum</i>	岐阜県上宝村福地	1	
頭足	Nothoceratid gen. and sp. indet.B	岐阜県上宝村福地	1	
腹足	" <i>Murchisonia</i> " sp.	岐阜県上宝村福地	1	
腕足	<i>Cymostrophia</i> sp.	岐阜県上宝村福地	1	
腕足	<i>Atrypa</i> sp.	岐阜県上宝村福地	1	
ウミユリ	Crinoids	岐阜県上宝村福地	1	
ウミユリ	crinoid stems	岐阜県上宝村福地	1	
ウミユリ	crinoid calyx	岐阜県上宝村福地	1	
層孔虫	<i>Clathrodictyon</i> sp.	岐阜県上宝村福地	2	
層孔虫	<i>Amphipora cylindrica</i>	岐阜県上宝村福地	1	
三葉虫	<i>Crotalocephalus</i> sp.	岐阜県上宝村福地	2	

石炭紀 合計：14点

分類	学名	産地	点数	備考
床板サンゴ	<i>Cladochonus hamadai</i>	岐阜県上宝村福地	1	
床板サンゴ	<i>Syringopora ichinotaniensis</i>	岐阜県上宝村福地	1	
床板サンゴ	<i>Multithecopora</i> sp.	岐阜県上宝村福地	1	
四放サンゴ	<i>Kueichouphyllum</i> sp.	福井県和泉村上伊勢	2	

(3) 人類史展示室

イ. 展示目的

展示は、人類が共通して持つ普遍の心、『崇める心』をテーマにした。

古来より人類は自然を畏れ尊び、人間の知恵と力の及ばないところに神の世界があると考え、その神秘を崇める心を培ってきた。豊かな文化や現代にまで残る遺産といった古代文明の所産は「崇める心」の象徴であり、現代文明においても人々の心のよりどころとなっている。また、先人の努力があって我々も今日の生活を営めるのであり、何千年も前から現代にまで通じる文化の共通性・独自性を知ることは、今後の文化・文明を考える上でも重要である。

ダイナミックな造形を生んだ世界各地の文化遺産の展示を通して、21世紀を生きる現代人の視野を広げ、文明を育む原動力となった人類の“心”を問う場を提供している。

ロ. 展示内容

人類史展示室では、世界各地の考古資料を各文明・文化ごとにまとめた展示を行なっている。旧石器時代から世界の7大文明と日本の縄文時代について、その全体像と精神性を実物資料、模型、解説パネル、映像、ミラービジョン等によって紹介している。

『崇める心』をテーマに人類の心を探り、その帰結としての諸文明を提示している。

〈旧石器時代〉

約400万年以上前から世界各地に広がった人類は、厳しい自然環境に適応しつつ豊かな文化を育んでいった。火の使用、石器の加工技術、豊穡や秩序を祈る洞窟壁画等を通して、旧石器時代の人々の『崇める心』を中心に紹介する。

* 展示手法

- 実物資料…旧石器。
- 縮小模型…旧石器時代の洞窟壁画。

〈世界の古代文明〉

約1万年前頃から、世界各地に文明・文化が興っていった。古代文明展示の導入として大型の地図・年表を配置し、7つの文明と日本の縄文時代の地理的・時代的な位置関係を一覧できるよう工夫した。

各文明に見られる環境や遺跡・遺物を一堂に見ることで、それぞれの相違点や普遍性を垣間見ることができる。

* 展示手法

- 世界地図に8つの21インチモニターを配置し、各文明の気候風土・代表的な遺跡・遺物を映像で紹介している。

〈古代文明と崇める心〉

紀元前3000年頃より栄えた世界的にもよく知られる7つの文明を展示コーナーごとに分けて展示している。

世界各地の古代文明を、社会のあり方や建築、実物資料の造形や紋様等、多方面から見つめ、比較することで、それぞれの文明を支えた人々の宗教観・死生観を探り、人類の未来を模索する。

* 展示コーナー

- ① メソポタミア文明
- ② ギリシア・地中海文明
- ③ エジプト文明
- ④ インダス文明
- ⑤ 中国文明
- ⑥ メソアメリカ文明
- ⑦ アンデス文明

* 展示手法

- 実物資料…保存状態の良好な副葬品の展示。特に中・南米は当時の人々の精神性を伝える土器や、布製品等の一級資料で充実している。
- グラフィック…大型写真パネル、地図・年表、解説文を全文明統一した手法で配置した。
- 模型資料…当時の人々の精神性を伝える神殿縮小模型・太陽の船縮小模型・遺跡の復元模型・巨木柱等を設置している。また、アンデス文明『太陽の門』の精巧な原寸大の模型は、現地の天野博物館にご協力いただいた資料を元に作成した。

〈甦る縄文世界〉

縄文時代は近年の発掘・調査・研究により、その生活水準の豊かさが見直され、現在でも新たな発見が相次いでいる。

自然と共に生き、1万年以上もの間続いた縄文時代の全体像を提示し、同時期に栄えた世界の文明と共に展示する。

* 展示手法

- 実物資料…土偶、土器、石製品。
- レプリカ…木製品、土器。

〈学習コーナー〉

展示を振り返り、楽しみながら復習する場とする。

* 学習手法

- 古代文字スタンプ…エジプトのヒエログリフとマヤ文字のスタンプを用意し、名前

や来館日等を古代の絵文字で押して、持ち帰られるようにしている。

- 土器の立体パズル…縄文の火炎土器とアンデスの鐙形土器を電磁石で組み立て、資料復元のミニ体験ができるようにしている。

- Q & A コーナ…タッチパネルモニターで、展示内容を題材にした3択5問のクイズを行なえるようにし、展示の復習を促している。

常設展示資料一覧

資料名	地域	文明・時代	文化・時代	種類	法量
メソポタミア文明					
大理石円筒印章	西アジア	メソポタミア	シュメール文化、初期王朝	石製品	H34XW19XD18
石灰岩牛形印章	西アジア	メソポタミア	ウルク〜ジエムデッド・ナラ期	石製品	H15XW33XD20
十六花卉・人物印章	西アジア	ペルシア	アケメネス朝ペルシア	土製品	H88XW100XD35
十六菊花文飾り	西アジア	メソポタミア	アッシリア文化	石製品	H122XW122XD70
十六菊花文飾り	西アジア	メソポタミア	アッシリア文化	石製品	H95XW95XD30
地母神土偶	西アジア	シリア		土製品	H132XW50XD30
碑銘のレンガ	西アジア	メソポタミア	シュメール文化、ウリ第三王朝	土製品	H300XW308XD80
碑銘のレンガ	西アジア	メソポタミア	新バビロニア文化	土製品	H220XW225XD55
楔形文字入り土製釘	西アジア	メソポタミア	シュメール文化、初期王朝	土製品	H85XW50XD50
楔形文字入り土製釘	西アジア	メソポタミア	シュメール文化、初期王朝	土製品	H102XW40XD42
楔形文字入り土製釘	西アジア	メソポタミア	シュメール文化、初期王朝	土製品	H86XW47XD47
楔形文字入り土製釘	西アジア	メソポタミア	シュメール文化、初期王朝	土製品	H98XW47XD50
楔形文字入り土製釘	西アジア	メソポタミア	シュメール文化、初期王朝	土製品	H85XW42XD46
碑銘のレンガ	西アジア	メソポタミア	新バビロニア文化	土製品	H200XW170XD40
碑銘のレンガ	西アジア	メソポタミア	シュメール文化、初期王朝	土製品	H75XW165XD110
碑銘のレンガ	西アジア	メソポタミア	ドゥル・クリガルス?	土製品	H95XW150XD105
ヒトデ文指輪	西アジア	メソポタミア	イラン高原、シバエ	金属製品	H30XW30XD22
鹿文指輪	西アジア	メソポタミア	イラン高原、シバエ	金属製品	H25XW25XD21
男女神像ブロンズ指輪	西アジア	メソポタミア	イラン高原、シバエ	金属製品	H22XW22XD22
狩人・インバラ文青銅印章指輪	西アジア	メソポタミア	イラン、カスピ海地方	金属製品	H18XW23XD12
青銅男女像印章指輪	西アジア	北イラン	ギラン地域	金属製品	H23XW26XD22
人物文紅玉髓印章	西アジア	シリア	ハネズム文化		H3XW12XD15
ラピスラズリ印章指輪	中央アジア	アフガニスタン	ササン朝文化	金属製品	H20XW20XD10
テラコッタ人物像	西アジア	シリア		土製品	H90XW40XD38
注口皿	西アジア	シリア		土器	H70XW158XD155
注口皿	西アジア	シリア		土器	H43XW130XD128
双耳壺	西アジア	シリア		土器	H210XW230XD220
取っ手付き鉢	西アジア	シリア		土器	H70XW105XD80
取っ手付き壺	西アジア	シリア		土器	H150XW150XD120
取っ手付き壺	西アジア	シリア		土器	H110XW95XD75
取っ手付き壺	西アジア	シリア		土器	H205XW70XD55
取っ手付き小壺	西アジア	シリア		土器	H65XW50XD50
取っ手付き注口小壺	西アジア	シリア		土器	H75XW50XD60
壺	西アジア	シリア		土器	H90XW45XD45

資料名	地域	文明・時代	文化・時代	種類	法量
壺	西アジア	シリア		土器	H90XW55XD55
筒壺	西アジア	シリア		土器	H98XW70XD70
ギリシア・地中海文明					
トンボ玉ネックレス・14点	西欧	地中海沿岸	ローマ期	装身具	H560
練りガラス腕輪	西アジア	シリア	ローマ期	装身具	H7XW63XD63
銀化片耳水差し	西欧	東部地中海	ローマ期	容器	H131XW90XD82
練りガラス壺	西欧	東部地中海	ローマ期	容器	H75XW40XD40
練りガラス小瓶	西欧	東部地中海	ローマ期	容器	H140XW27XD27
青銅製手	西欧	北イタリア	ヴェイノーバ、エトルスカ	金属製品	H130XW95XD45(左手)
少年頭部塑像	西欧	南イタリア	ヘレニズム文化	土製品	H140XW120XD150
テラコッタ・ヴィーナス像	西欧	東部地中海	ヘレニズム文化	土製品	H315XW150XD130
ワイン壺・アンフォラ	西欧	北イタリア	エトルスカ文化	土器	H600XW450XD400
アッティカ式赤絵高杯	西欧	南イタリア	アフリカン	陶器	H43XW163XD163
人頭象形壺	西欧	イタリア	エトルスカ文化	陶器	H113XW55XD65
フクロウと植物文様鉢	西欧	イタリア	エトルスカ文化	陶器	H110XW240XD161
双耳彩文広口壺	西欧	南イタリア	ドーリック文化	陶器	H132XW200XD140
赤色刻文長首壺	西欧	キプロス島	青銅器文化時代Ⅲ期	陶器	H200XW120XD120
幾何学文取っ手付き水差し	西欧	キプロス島	鉄器時代～幾何学文時代Ⅲ期	陶器	H247XW170XD170
白地朱彩鳩土偶	西欧	イタリア、カンナ	ゲレコ・ローマン文化	土製品	H78XW145XD60
黒色馬刻文双耳壺	西欧	北イタリア	ヴェイノーバ文化	陶器	H142XW155XD120
十字刻文皿	西欧	北イタリア	ヴェイノーバ文化	陶器	H28XW218XD215
練りガラス腕輪	西欧	西アジア	シリア	装身具	H5XW65XD65
銀化広口瓶	西欧	東部地中海	ローマ期	容器	H73XW60XD60
スフィンクス図アラバストロン	西欧	イタリア		陶器	H120XW62XD62
鶏図アラバストロン	西欧	イタリア		陶器	H115XW60XD60
エジプト文明					
ブラックトップ広口壺	アフリカ	エジプト	ナカタ I～II期	陶器	H250XW120XD120
彩色渦巻文壺	アフリカ	エジプト	初期王朝時代	陶器	H160XW215XD215
木製彩色人物座像	アフリカ	エジプト	中王国時代	木製品	H85XW43XD65
木棺マスク	アフリカ	エジプト	末期王朝時代	木製品	H320XW315XD110
木製腕	アフリカ	エジプト	新王国時代	木製品	H280XW45XD40
アラバスター製容器	アフリカ	エジプト	新王国時代	容器	H178XW43XD43
アラバスター製容器	アフリカ	エジプト	初期王朝時代	容器	H203XW65XD65
石製二本指形護符	アフリカ	エジプト	第一中間期	石製品	H70XW37XD37
埋葬用コーン	アフリカ	エジプト	新王国時代	土製品	H93XW80XD78
埋葬用コーン	アフリカ	エジプト	新王国時代	土製品	H75XW75XD130
埋葬用コーン	アフリカ	エジプト	新王国時代	土製品	H70XW85XD175
埋葬用コーン	アフリカ	エジプト	新王国時代	土製品	H75XW80XD85
青銅トト神像	アフリカ	エジプト	末期王朝時代	金属製品	H122XW100XD32
礼拝者彩色浮き彫り	アフリカ	エジプト	新王国時代	彫刻	H185XW310XD285
浅浮き彫り石碑	アフリカ	エジプト	末期王朝時代	彫刻	H190XW370XD33

資料名	地域	文明・時代	文化・時代	種類	法量
阿玉台式土器	日本		縄文中期中頃	土器	H400XW315XD315
人面付き香炉形土器	日本		縄文後期後半	土器	H75XW60XD65
加曽利E式土器	日本		縄文中期後半	土器	H365XW295XD285
加曽利E式土器	日本		縄文中期後半	土器	H340XW200XD230
双口壺土器	日本		縄文後期前半	土器	H150XW90XD85
大洞b c式香炉形土器	日本	東北北部	縄文晩期	土器	H100XW135XD135
香炉土器	日本	東北地方	縄文後期後半	土器	H120XW67XD67
獣頭付き香炉土器	日本	東北北部	縄文後期後半	土器	H72XW47XD42
大洞b c式注口土器	日本		縄文晩期	土器	H85XW110XD125
大洞b c式注口土器	日本	東北地方	縄文晩期	土器	H100XW140XD160
注口土器	日本	東北南部	縄文後期後半	土器	H130XW113XD157
十腰内式土器	日本	青森県	縄文後期前半	土器	H95XW105XD120
大洞c 1式壺四足土器	日本		縄文晩期中頃	土器	H73XW72XD72
大洞c 1式壺土器	日本	東北北部	縄文晩期中頃	土器	H100XW90XD90
大洞c 1式壺土器	日本	東北地方	縄文晩期	土器	H70XW87XD85
大洞c 1式壺土器	日本	東北南部	縄文晩期中頃	土器	H145XW73XD73
大洞a式壺土器	日本	東北地方	縄文晩期	土器	H115XW105XD105
大洞c 2式台付き鉢	日本	東北南部	縄文晩期	土器	H35XW105XD100
大洞c 2式台付き鉢	日本	東北南部	縄文晩期	土器	H50XW95XD95
土製耳飾り	日本		縄文晩期	土製品	H39XW39XD16
土製耳飾り	日本		縄文晩期	土製品	H35XW35XD12
土製耳飾り	日本		縄文晩期	土製品	H39XW39XD13
ミニチュア土器	日本		縄文	土器	H20XW50XD45
ミニチュア土器	日本		縄文	土器	H25XW25XD25
ミニチュア土器	日本		縄文	土器	H28XW46XD46
人面付き土板	日本	関東地方	縄文晩期	土製品	H83XW64XD11
人面付き土板	日本	東北北部	縄文晩期	土製品	H95XW63XD22
人面付き土板	日本	関東地方	縄文晩期	土製品	H80XW68XD9
ヒスイ製大珠	日本		縄文後期	石製品	H80XW30XD20
ヒスイ製珠	日本		縄文後期	石製品	H45XW30XD23
ヒスイ製珠	日本		縄文後期	石製品	H55XW23XD10
ヒスイ製珠	日本		縄文後期	石製品	H40XW21XD11
ヒスイ製珠	日本		縄文後期	石製品	H26XW13XD10
ヒスイ製珠	日本		縄文後期	石製品	H11XW11XD8

(4) 美術展示室

イ. 展示目的

芸術は古来より人の精神性に深く関わり、洗練されてきた。万人に通ずる清明正直な美の世界から、高い感性を培うことを目的としている。

ロ. 展示内容

当館では“清明正直”感の漂う日本画や書等の資料を収集している。常設展示室では、所蔵する日本画・書の常設展示を行ない、作品の保護を考慮して年に3～4回展示替えを行っている。

また、企画展示室では年に3～4回企画展を開催している。

〈第1展示室〉

当館所蔵の近・現代の日本画を中心とした常設展示。

200点を越す所蔵品の中より、常時約30点を展示し、季節に合わせて年に3～4回の展示替えを行なっている。

* 所蔵作家

宮本武蔵、葛飾北斎、歌川広重、富岡鉄斎、竹内栖鳳、横山大観、菱田春草、
上村松園、鏑木清方、前田青邨、伊東深水、棟方志功、東山魁夷、他

〈第2展示室〉

当館所蔵の近・現代の大型屏風を中心に展示を行なっている。季節感を考慮し、年3～4回展示替えを行なっている。

* 展示資料

横山大観…「不二霊峰」

加山又造…「夜桜」「龍図」

今井俊満…「夏草図」「紅葉賀」

芹沢銈介…型絵染め「いろは」「春夏秋冬」、他

〈能舞台〉

能は鎌倉時代に神社の境内を舞台に始まり、約700年もの間守り継がれてきた日本の伝統芸能である。

能の演目内容や装束、能舞台の解説を行ない、目に見えない幽玄の世界をも表現する能の、深奥で研ぎ澄まされた芸術性を伝える。

* 展示資料

○ 可動式、総檜造りの能舞台。

○ 能装束一式…『羽衣』、『猩々』等。

- 60インチモニター映像…『羽衣』の和合の舞、『高砂』の舞囃子。

〈第3展示室〉

当館では、歴史上の著名人（詩人・歌人等）や、近・現代の書家の作品等約200点の書を所蔵しており、その内約30点を常設展示している。

尚、企画展のスペースが足りない場合は第3展示室も企画展示室として流用し、第1・第2展示室にて書を表示することもある。

* 所蔵作家

貫名菴翁、市川米庵、良寛和尚、賀茂真淵、勝海舟、若山牧水、手島右卿、他

〈第4展示室〉

館所蔵資料の他に他館から資料を借用し、芸術世界の先駆者的役割を果たした人物の作品展を主に開催している。

また、420点を越える館所蔵肉筆浮世絵の中から、テーマを決めて企画展を行なっている。

※企画展の内容によっては、第1、第2展示室で常設展、第3・第4展示室で企画展を行なうこともある。

(5) 映像展示

地下3階受付を通ったところにガイダンスコーナを設置し、館の概要を閲覧してから観覧できるようにしている。

ガイダンス映像（約7分）

地下1階には各展示室での展示映像を1個所で閲覧できるビデオライブラリ（7ブース）を設置している。ここでは現行の展示映像のほかに、これまで放映した過去のプログラムをも閲覧でき、じっくりと腰を据えて学習できるようにしている。

ビデオライブラリーリスト／ Video Library List			
No	タイトル Titles	時間 Time	備考 Remarks
111	妙 Wonder	約 5 分 5 minutes	古代からのメッセージ Messages from Ancient Times
112	メガリス Megaliths	約 5 分 5 minutes	
113	宇宙の調和 The Cosmos in Harmony	約 6 分 6 minutes	
211	生命の星誕生 Birth of the Earth	約 1 分 1 minute	飛騨展示室 HIDA HALL
212	不思議な動物サンゴ Coral — A Mysterious Life Form	約 4 分 4 minutes	
213	化石は語る Fossils	約 3 分 3 minutes	
214	大自然の恵み The Grandeur of Nature	約 4 分 4 minutes	
215	高山盆地の形成 Formation of the Takayama Basin	約 2 分 2 minutes	
221	すばらしき化石の世界 The Wonderful World of Fossils	約 8 分 8 minutes	オリジナルプログラム ORIGINAL PROGRAM
222	大いなる大地 Wonders of the Earth	約 8 分 8 minutes	
223	自然界の調和 Harmony in Nature	約 7 分 7 minutes	

B. 教育普及活動

[1] 講演会

(a) 館内での講演会

光記念館主催のものを、平成14年度は3回、平成15年度は5回開催した。

平成 14 年度講演会 1

岡田康博先生をお招きし、下記の通り実施した。企画展に合わせた講演内容で大変興味深いものであった。

《開催内容》

日 時：平成14年6月2日（日）13：00～14：30

講 師：岡田康博先生 文化庁文化財部記念物課 文化財調査官

主 題：『縄文の耀き ～三内丸山遺跡と飛騨～』

場 所：当館1階小ホール

参加人数：160名

講座概要：日本列島を中心に約1万年間続いた縄文文化の生活の豊かさについて、約60枚のカラーสライドを用いながら、三内丸山遺跡を中心にわかりやすくご紹介いただいた。

平成 14 年度講演会 2

村治笙子先生をお招きし、下記の通り実施した。

《開催内容》

日 時：平成14年8月18日（日）13：00～14：30

講 師：村治笙子先生 エジプトアラブ文化研究会 副会長

主 題：『エジプト文明講座 ～壁画にみるヒエログリフ～』

場 所：当館1階小ホール

参加人数：60名

講座概要：古代エジプトは、紀元前3000年頃から文明が興り、約3000年間繁栄した。来世を重んじた人々は墓をさまざまな壁画や副葬品で埋めた。壁画から伺える人々の生活や死生観、文字の内容などについてわかりやすくご紹介いただいた。

平成 14 年度講演会 3

濱田隆士先生をお迎えし、下記の通り実施した。

《開催内容》

日 時：平成14年8月25日（日）13：00～15：00
講 師：濱田隆士先生 放送大学教授 東京大学名誉教授 福井県立恐竜博物館館長
主 題：『恐竜ゼミナール』
場 所：当館地下1階 地質科学より見た飛騨展示室及び工作室
参加人数：52名
講座内容：飛騨展示室で古生代、中生代のジオラマを見学し、その後濱田先生より手取層から発見された化石の話や日本で最初に見つかった恐竜の話をはじめ、日本中で恐竜の化石が見つかるなどのお話をいただいた。特に濱田先生ご自身のお話——先生も日本には恐竜がいないと思っておられたが、一つの恐竜化石の発見から恐竜について研究が進んでいったというその経緯のお話——には参加者が大変興味を抱いた。また、三葉虫化石からとった型にオープン粘土を詰めるレプリカ作りを行なった。その後記念写真撮影を行ない、残りの時間で先生より恐竜の卵の生態と大きさの対比についてお話をいただいた。

平成 15 年度講演会 1

児島先生をお迎えし、下記の通り実施した。

《開催内容》

日 時：平成15年5月31日（土）15：00～16：00
講 師：児島英雄先生 マヤ研究家・染色家
主 題：『マヤ拓本解説』
場 所：当館地下2階 企画展示室
参加人数：100名
講座概要：児島氏は約30年前に中米に渡り、ジャングルに眠る石碑約120点の拓本を採取している。企画展では、光記念館で所蔵する80点の拓本を一堂に展示した。今回の講演会では企画展示室内外に展示された拓本の前で、児島氏より30年前の苦労談や石碑の文字の絵柄の意味について、興味深いお話をいただいた。

平成 15 年度講演会 2

大貫良夫先生をお招きし、下記の通り実施した。

《開催内容》

日 時：平成15年6月22日（日）13：00～15：00
講 師：大貫良夫先生 東京大学名誉教授
主 題：『中南米の古代文明』
場 所：当館1階小ホール
参加人数：99名

講座概要：中米のマヤ文明、アステカ文明、南米のアンデス文明など、中南米にも古くから多くの文化・文明が繁栄している。カラースライド60枚を見ながらそれぞれの文化・文明の生活やその特徴、今後の研究などについて幅広くお話をいただいた。

平成 15 年度講演会 3

岡田康博先生をお招きし、下記の通り実施した。

《開催内容》

日 時：平成15年8月10日（日）13：00～14：30
講 師：岡田康博 三内丸山遺跡対策室文化財保護主幹
主 題：『縄文の耀き』
場 所：当館1階小ホール
参加人数：93名

講座概要：旧石器の捏造事件によって考古学のあり方が問われる中、年代測定方法や最新の調査研究と縄文時代について、また、大陸とのかかわりについて、今までと違う視点からお話をいただいた。

平成 15 年度講演会 4

濱田隆士先生をお招きし、下記の通り実施した。

《開催内容》

日 時：平成15年8月24日（日）13：00～16：00
講 師：濱田隆士先生 放送大学教授 東京大学名誉教授 福井県立恐竜博物館館長
主 題：『恐竜ゼミナール』
場 所：当館地下1階 地質科学より見た飛騨展示室及び工作室
参加人数：30名

講座概要：最初に手取層についての説明をいただいた。その後、肉食恐竜の特徴、爬虫類と恐竜の違い、鳥と恐竜のかかわり、恐竜の魅力と最新情報などについてのお話をいただいた。また、サンクンガーデンでは実物大恐竜模型（カガリュウ）を見ながらその特徴についてもお話をいただいた。

○ 工作室での体験学習

特殊な粘土（天使のねんど）を使ってカガリュウの恐竜模型を作成。作成中、濱田先生にはさまざまな質問に対してお答えいただいたり、子供達の中に入って一緒に恐竜模型を作成していただいたりして楽しい講座にすることができた。

平成 15 年度講演会 5

八田創造先生をお招きし、下記の通り実施した。

《開催内容》

日 時：平成15年10月5日（日） 11：00～12：00 14：00～15：00

講 師：八田創造先生 染色家

主 題：『芹沢先生の思い出と型絵染めについて』

場 所：当館地下2階 企画展示室

参加人数：100名

講座概要：親子三代にわたって芹沢銈介氏と親交のあった染色家の八田家。芹沢氏が人間国宝の認定を受けた後は、同氏の藍染め作品のほとんどを手がけたという八田氏より、展示室で実際に作品を前にして、説明をいただいた。

平成 15 年度講演会 6

開館 5 周年を記念して能楽公演を下記の通り実施した。

《開催内容》

日 時：平成15年11月4日（火） 11：00～12：00 15：00～16：00

講 師：観世流能 大蔵流狂言

主 題：光記念館開館 5 周年記念能楽公演

場 所：当館地下2階 能舞台

参加人数：1100名

講座概要：午前の部・午後の部 共に狂言は大蔵流、能は観世流。

午前の部

大蔵流 狂言「栗焼」

観世流 能 「猩々」

午後の部

観世流 能 「猩々 乱」

大蔵流 狂言「口真似」

平成 15 年度講演会 7

子供たちの理科離れが進む昨今、文部科学省は実験など体験的な学習を行なう機会を提供し、幅広く理科への興味関心を持ってもらおうという推進事業を行なっている。

光記念館の『みんなで知ろう！ジュラシックワールド』（※1）と題した体験学習（全5回）がこれに採用され、内2回（平成15年度講演会4・7）は、当館『地質科学より見た飛騨展示室』の学術相談者・濱田隆士先生（放送大学教授、東京大学名誉教授、福井県立恐竜博物館館長）に講演を頂いた。特に最終回は高山市の土曜教室と組み合わせて、下記の通り実施した。

《開催内容》

日 時：平成15年12月13日（土）10：30～12：00

講 師：濱田隆士先生 放送大学教授 東京大学名誉教授 福井県立恐竜博物館館長

主 題：『恐竜ゼミナール』

場 所：当館1階小ホール

参加人数：81名

講座概要：8名の子供たちにジュニアキュレータとして学んだことを発表していただいた。そして濱田先生より羽毛の生えた恐竜や最古の鳥類の話を頂いた。その後の子供たちによる質疑応答ではかなりの質問が出た。

※1 文部科学省科学系博物館教育機能活用推進事業

1、事業名：みんなで知ろう！ジュラシックワールド

2、会期：平成15年7月15日～平成15年12月13日

3、会場：岐阜県飛騨地方の小中学校、光記念館

4、趣旨：

地元の小学校の協力を得て、学校で事前学習を行ない、子供学芸員（ジュニアキュレータ）を募集した。ジュニアキュレータには、当館で開催する5回の体験学習に博物館側の立場で参加して頂いた。そのための準備として毎回小学校へ出向き、ジュニアキュレータへの事前授業を行なった。

(b) 館外講演会

国際浮世絵学会と太田記念美術館より、世界有数の肉筆浮世絵コレクションを有する当館に「コレクションの紹介をしてもらいたい」との依頼があり、下記の如く発表する機会を頂いた。

日時：平成15年3月8日（土）15:00～17:00

場所：学習院大学

発表者：光記念館主任（学芸員）吉井隆雄

日時：平成15年5月10日（土）13:00～17:00

場所：太田記念美術館

発表者：光記念館主任（学芸員）吉井隆雄

(財)日本博物館協会主催

平成14年度博物館指導者協議会庶務部門が、当館を会場に次のように行なわれた。

会場：光記念館

12月19日(木) <第一日目>

12:30～13:00 受付

13:00～13:30 オリエンテーション・挨拶

日本博物館協会専務理事.....五十嵐 耕一

光記念館館長代理.....平塚 林司

13:30～14:30 講演「『博物館の望ましい姿』と評価」

東京都江戸東京博物館長.....竹内 誠

14:30～15:30 講演「独立行政法人国立博物館の目標・計画・評価」

東京国立博物館総務部長.....杉長 敬治

15:30～17:00 概要説明・館内見学

光記念館代理課長.....高野 博司

17:30～19:00 懇親会(館内レストラン)

12月20日(金) <第二日目>

9:00～10:00 講演「私立博物館の運営と評価」

徳川美術館副館長.....山本 泰一

10:00～12:00 パネルディスカッション

「21世紀に対応する博物館の設置・運営に関する
基準と評価はいかにあるべきか」

司会 東京都江戸東京博物館長.....竹内 誠

講師 東京国立博物館総務部長.....杉山 敬治

徳川美術館副館長.....山本 泰一

歴史民俗資料館・高山市郷土館長

.....田中 彰

光記念館学芸員.....吉井隆雄

(c) 出張美術館

事業の意図目的

社会福祉施設事業の支援として、社会福祉施設に当館の美術品を持ち込み、本物の美術作品に触れて頂き、優れた美術作品から感動・喜びを体験して頂くため。

学校における総合学習の時間の支援として、小・中学校に当館の美術品を持ち込み、児童・生徒に本物の美術作品に触れて頂き、優れた美術作品から感動・喜びを体験して頂くため。

芸術作品を通して芸術文化へ触れることにより、和やかな心と豊かな感性が養われることを願うとともに、岐阜県飛騨地域の交通のハンデを少しでも解消し、多くの人々に鑑賞して頂くため。

事業概要

本物の（浮世絵版画）葛飾北斎「富嶽三十六景」・歌川広重「東海道五十三次」を館外各施設へ持ち出し、鑑賞をして頂くと共に、解説をする事で、社会福祉施設、小・中学校への教育普及活動を行う。

また、ITを活用した作品紹介を行う。手法として、プロジェクタの画面に映し出された作品に線・円・三角などを描き加えることで、作者の意図を視聴覚的に図示し伝える。

事業の計画にあたり参考にした他機関の事業等

富山県立近代美術館、三重県立美術館の関係資料。

広報の方法と関連印刷物

市内の小中学生、社会福祉施設へ利用案内の配布。

事業の制作及び報告書等

作成した報告書等「光記念館出張美術館報告書」（A4判 32ページ）

参加者状況

参加人数：延べ1,076名（参加申込人数：延べ1,100名）

※内訳：小学生＝延べ509名／中学生＝延べ442名／大人＝延べ125名

はじめに

近年、博物館にはこれまでにない新しい分野の活動が求められてきている。特にこれからは、博物館が多様化・高度化する学習を支援するものとして、多方面にわたる要求に対し応えて行く時代といえる。そのため、博物館に従来の資料収集、保存、展示、調査研究、教育普及活動に加えて、情報サービスを提供したり地域に貢献するという役割が加えられてきている。

そして、平成14年度より学校に「総合的な学習」の時間が導入され、学校がますます多様化してきたばかりでなく、社会福祉施設をはじめ生涯学習という点からの博物館への期待も大きいといえる。

当館としても、これらの要望にお応えする為、平成15年度に「出張美術館」を計画・実施致した。その目的は、学校の児童・生徒や社会教育施設に属する方々に、本物の美術作品に触れて頂き、感動・喜びを体験して頂く為である。

また、今後の高齢化社会を鑑みて、老人ホームなどの「社会福祉施設」にも同様に計画・実施した。

(1) 事業実施のプロセス

- 1, 開催要項の決定 (4月)
- 2, 開催要項の配布 (7月)
- 3, 実施日：平成15年10月1日～平成16年3月31日

(2) 参加者のタイムスケジュール

- (1) 日 時：平成15年10月1日 3限・4限
場 所：山王小学校 多目的教室
対象者：6年1組・2組 (80名)
- (2) 日 時：平成15年10月15日 3限
場 所：松倉中学校 体育館
対象者：3年生全員、1年・2年生の一部 (合計227名)
- (3) 日 時：平成15年10月29日 1限・2限・3限
場 所：南小学校 図工教室
対象者：6年1組・2組・3組 (90名)
- (4) 日 時：平成15年10月30日 1限・2限
場 所：江名子小学校 図工教室
対象者：6年1組・2組 (54名)
- (5) 日 時：平成15年11月19日 14時～15時
場 所：豊楽園ホール
対象者：55名
- (6) 日 時：平成15年11月28日 3限・4限

- 場 所：新宮小学校 図工教室
対象者：6年1組・2組（合計60名）
- (7) 日 時：平成15年12月2日 3限・4限
場 所：西小学校 マルチルーム
対象者：5年1組・2組 6年1組・2組（合計95名）
- (8) 日 時：平成15年12月3日 14時～15時
場 所：新宮園ホール
対象者：50名
- (9) 日 時：平成15年12月4日 5限
場 所：荘川中小学校 技術家庭室
対象者：1年2年（合計31名）
- (10) 日 時：平成15年12月5日 5限
場 所：荘川小学校 多目的教室
対象者：1年～6年（合計64名）
- (11) 日 時：平成15年12月9日・10日
場 所：中山中学校 多目的教室
対象者：3年5クラス（合計：184名）
- (12) 日 時：平成15年12月11日 3限・4限
場 所：新宮小学校 図工教室
対象者：5年1組・2組（合計66名）
- (13) 日 時：平成15年12月16日 14時～15時
場 所：うりす苑ホール
対象者：20名

(3) 参加者の反応

【社会福祉施設の反応】

- 老人ホームは初めてだったので、当初はどのようにさせて頂いたら良いか判らなかった。当館の担当者の一人にボランティア経験者がいたことは幸いだった。介護士の方が「ゆっくりと大きな声」で話をされていたので私共も心がけた。
- 昔この浮世絵が永谷園のお茶漬けの景品やマッチ箱の絵柄にあった事を思い出して頂いた。
- 1人1人お名前を呼びかけ、本当に耳で話をしないと理解できない方が大半だった。会話が困難な方に手を握りながら絵を説明していたら、反応が返ってきた事がある。
- 絵を見て頂き、昔のことや思い出した内容を聞く事が良いようである。
- 高齢者との基本は「ふれあい」であり、コミュニケーションをとる事が大切である。
- 高齢者の方にお歳を聞いて、90歳まで長生きした北斎と比べたりすると関心を示された。

- 絵が好きで、御自分でも絵を描かれるという方に特に喜ばれた。その方は、御自分の作品を私共に見せて下さった。

【小・中学校の反応】

- 初めて本物を見られて良かったという声が圧倒的である。
- 子供達の中より光記念館に行ってみたいという意見が多かった。後日、親御さんと一緒に来られる方が多かったので、その点を考えると確実に「集客」に繋がっている。
- 版画は3人一組のグループで行ったが、それぞれ自由な発想で作り上げていた。児童・生徒の想像力に驚かされた。
- 北斎や広重などが欧州を中心にジャポニズムとして大きな影響を与えた事に子供たちは驚いていた。同じ日本人として誇りを持ったようである。
- 北斎と広重の比較をする事により、二人の技法や構図の違いが良く分かった。

(4) 参加者の感想

【社会福祉施設】（介護士のアンケートより）

- 今後も午後のレクリエーションの時間の中で利用を希望する。
- 脳への刺激、特に痴呆老人へのリハビリ的機能への期待が出来るのではないかと思う。
- 大変、判りやすい説明で好評であった。IT（パワーポイント）を活用した展示説明など様々な説明を受けた事で次回も期待する。
- 素晴らしい作品を有り難うございました。
- 今後も利用したい。
- 数多くの美術品等を鑑賞する事によって入居者の方々に豊かな生活を送って頂きたい。
- 入館者は外出する機会が少ないので大変好評だった。

【小・中学校】（教員アンケートより）

- 一学期の方が教材に合わせられた。今後も利用したいが、準備期間が欲しい。
- 本物という事で感動が得られる。その心を育てたい。
- 図工（B）の鑑賞の時間に利用したいので、所蔵品リストを教えて頂きたい。
- 浮世絵版画については、学校教育では6年生の社会で少し扱う程度で本物に触れる機会はほとんどない。
- 本物に出会わせる事が、子供の心を最も揺さ振るという事をまざまざと感じた。来年もぜひお願いしたい。
- ガラスなどの立体作品も欲しい。良いものを見る目、本物の良さを教えてあげたい。
- 解説の語り、相手へ伝えるという事が素晴らしいと思った。
- 鑑賞の時間に多くの素晴らしい絵に出会わせたい。
- 子供の感想にもあったが、学芸員が笑顔で明るく接してくれ、また本物を見せて頂いて感激した。
- 子供たちはかなり引き込まれていた。
- 教科書に取り上げてあるような作品があると嬉しい。

- 1時限では短いので、もう1時限あるとより理解が深まると思う。
- 今後も図工や社会で利用したい。
- 社会でも活用することにより、歴史に興味関心を持つようにしたい。
- 全日程が終了した時点で、来年の6年に引き継ぐ為にどのような形が良いか打ち合わせを行いたい。

(5) 事業の改善点及び注意点

【社会福祉施設】

- 今後、日本が高齢化社会に向かう事を考えた場合、当館としてはこの分野での取り組みの必要性を強く感じている。
- 幸い、地域の介護士の方が大変協力的であるので「博物館」と「社会福祉施設」とを十字に組み、連携を密にして行きたい。
- 高齢者の方々が楽しめ、元気がでるような内容、癒しの空間を目指す。
- 出張美術館として現在考えている新案は、「ITを活用した回想法の試み」である。これは、「大正・昭和の生活用具」を画像（プレゼンテーション用ソフト）で見せ、昔を思い出して頂くというものである。
- また、美術の分野では「広告のデザイン」を取り上げてみたい。これは、例えば、ビールや石鹸などの昔懐かしい広告を見せ、記憶をよみがえらせて頂こうという試みである。生活の中で大きな情報源となる広告を利用して、新たなチャレンジをしてみたい。
- その他、本物の絵画等を持ち込む事は今後も行うが、保存の関係上、困難な作品もある。介護士の方と相談したが、その場合、ITを活用した画像でも十分なので行って頂きたいとの事である。ITを活用した事業は今後、博物館活動でも大きな位置を占めるだろう。

【小・中学校】

- アンケートにおいて、出張美術館を行う前に興味があったか、あるいは行った後に興味を持ったかという点が曖昧であった為、不適切であった。しかし、感想文には出張美術館後、ほとんどの人が浮世絵に興味を持ったという内容が書かれていた。
- 興味のない子供にも美術（浮世絵）に興味を持たせる事が出来たという点で、出張美術館の意義は大きかった。
- 図工の教科書に載っているので授業に組み込み易かった。
- 体験学習として多色刷りは喜ばれた。
- 版画は3人一組のグループで行ったが、それぞれ自由な発想で作り上げていた。児童・生徒の想像力に驚かされた。



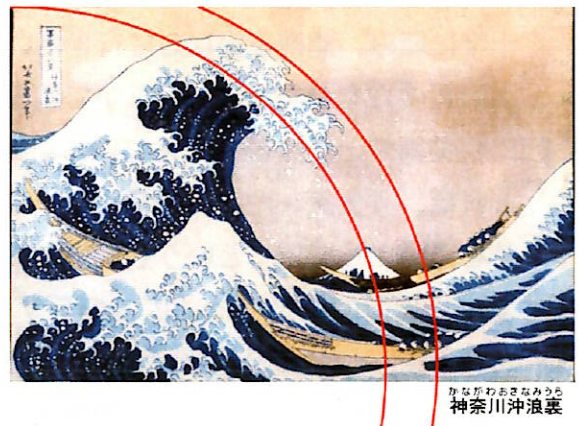
老人ホーム（新宮園）



老人ホーム（豊楽園）



新宮小学校 5年



パワーポイントを用いて図示

[2] ボランティア活動

当館では、ボランティア養成講座を、平成14年度と平成15年度に開催した（対象は陽光子友乃会会員より募集）。

来館者に接することを想定し、一般教養、礼節・マナーを重視し、明るく、礼儀正しく、笑顔がさわやかな、誰にでも親切なボランティアとして活動していただけるよう養成に努めた。

現在、日本全国の北は北海道から南は九州まで、約100名のボランティアに活動していただいている。

[3] 展示解説

ピラミッドの外観をした当館は、地上1階地下3階建て（地下1階部分から入館）という特殊な構造をしており、内部に自然史、歴史、美術という3つの異なる分野の展示室を持つ総合博物館であるため、初めて訪れた来館者は館内で迷うことも少なくない。

来館者に興味のある所から見学をしていただいているが、来館者の希望と時間的制約に応じて、下記の3通りの展示解説員による解説業務を実施した。

イ. 展示室解説

飛騨展示室、人類史展示室、美術展示室の各展示室で主な展示物の紹介や展示ストーリーの解説を実施した。展示室に常駐している学芸（解説）員が、来館者の希望や理解度に応じて解説を行なうもので、時間は来館者の希望に合わせることを原則としている。人と人とのふれあいを重視しながら、興味のうすい方にもわかりやすい解説を試みている。

平成14・15年度において約???件の団体に案内を行なった。

ロ. 館内全体解説

館全体を一通り案内しながら、各展示の解説を実施した。個々の展示物の解説よりも、館の概要や展示構成等に重点を置いた解説で、一人の学芸（解説）員が最後まで案内するものである。団体や予約されていた方を優先しているが、当日解説を申し出た個人来館者にもできるだけ対応している。所要時間は来館者の希望に合わせることが原則で、特に制約がない場合は約1時間30分程度を目安としている。

ハ. 特別展解説

企画展開催期間中、企画展示室に学芸（解説）員が常駐し、展示室内で解説希望の有無を確認しながら随時解説を行なった。所要時間は企画展の内容によって異なるが、約25～30分くらいを目安としている。企画展の場合はリピーターも多く、その分野に深く興味を持った来館者に対しては専門の学芸員が直接詳細解説や質疑応答を行なうこともある。

尚、平成13年度より毎週日曜・祝祭日の14：00～14：30まで（約30分）学芸員による企画展展示解説を実施している。

[4] 体験学習

平成14年・15年は体験学習に重点を置き、幅広いジャンルで計画・実施した。

化石クリーニング体験

日 時：平成15年4月29日～5月3日 毎日11:15～（20分～30分間）

平成15年5月27日～9月2日 毎週土曜日11:15～（8月9日～17日は除く）

場 所：地質科学より見た飛騨展示室（サンクンガーデン）

対 象：小学4年生～中学生

参加費：無料

目 的：岩石中にある化石を、自分で取り出したり見えやすくすることを通して、化石を身近に感じ、興味をもっていただくと同時に、化石について学習する機会を提供する。

内 容：岐阜県瑞浪市松ヶ瀬町の瑞浪層群明世累層山野内層から採取した新生代第三

紀中新世（約1700万年前）の、化石の含まれている岩石から化石を取り出したり見えやすくし、クリーニングした化石の種類を調べてケースに入れて整理した。完成したものは持ち帰って頂いた。また、化石の出来方や化石の種類、化石から分かることなどを学習した。

クリーニングに使用した道具：彫刻刃（先のとがったもの）・軍手

化石の整理に使用したもの：透明ケース・綿・学名記入用カード

その他：解説シート（岐阜県瑞浪市の博物館に御協力頂いた）



評 価 : 参加者のほとんどが本物の化石をクリーニングをすることが初めてだった為、本物の化石を手にするだけでも感動していた様子。

瑞浪の新生代の化石の含まれている岩石は非常に軟らかい為、子供でも容易にクリーニングすることができた。

作業内容自体は非常に単純なものにもかかわらず、どの参加者も時間を忘れて熱中していた。

付添って来られた父兄の中には、子供より興味深そうに見る方もいらした。

課 題 : 化石の含まれている岩石が軟らかいのと同様に、化石自体も非常にもろく壊れやすいので、化石を壊さないようにクリーニングするのは難しかった様子。化石についての説明（化石の出来方や化石の種類、化石から分かることなど）が少し子供には難しかったようなので、より理解しやすい説明の必要性がある。

当館では初めての試みだったが、子供達が化石に興味をもつきっかけとして非常に良いと思われるので、今後も課題を解決しつつ、同様の形で実施していきたい。

化石のレプリカ作り

日 時 : 平成14年7月～12月 毎週土曜日11:15～/14:00～（20分間）

平成15年2月26日～12月23日 毎週土曜日11:15～/14:00～（特別期間は除く）

場 所 : 地質科学より見た飛騨展示室（体験学習コーナー）

対 象 : 小学4年生～大学生

参加費 : 100円

目 的 : 誰でも簡単に作ることができるレプリカ作りを通して、レプリカの作り方やレプリカを作ることの意味について学習する。

また、レプリカ作りを通して化石を身近に感じて頂き、その化石について学習する機会を提供する。

内 容 : 2色の自由樹脂（お湯で軟らかくなる樹脂）を当館所蔵の化石（アンモナイトとスピリファー）から起こした雌型に入れ、きれいなマーブル模様のレプリカを作成する。

レプリカ作成後に、レプリカを作った化石についての解説を行なう。



評 価 : 誰でも簡単に作成することができ、出来上がりもきれいでオリジナル性が高い（マーブル模様は同じものができない）こともあり、非常に人気が高かった。

レプリカを作成することにより、化石や古生物についての興味関心が容易に持て、子供達が日頃あまり知ることのない内容（化石や古生物について）も学習する事ができた。

課 題 : 樹脂が硬化し始める時間が約30秒と短いことと、熱いお湯をつかって樹脂を柔らかくするため樹脂を手にした時少し熱かったこともあり、手先が器用でない子供には少し難しかった。

家族連れの来館者の中には小学3年生以下の子供が多く、そういった対象外の子供たちからレプリカ作りをしたいという希望が多数あったが、内容が難しいため受け入れることができなかった。

今後はより広い範囲でレプリカ作りを通して化石や古生物に興味を持って頂けるよう、他の素材や方法を考え実施していきたい。

化石のレプリカ作り体験（お盆特別期間）

日 時 : 平成15年8月10日・13日・16日 11:15～／14:00～（約50分）

場 所 : 地質科学より見た飛騨展示室（体験学習コーナー）

対 象 : 小学4年生～大学生

参加費：150円

目的：本物の化石からレプリカを作ることにより、その化石についての興味関心を促し、更に自分たちがレプリカを作った化石についての学習（ワークシートを使用）をすることにより、化石や古生物についての理解を深める。

内容：本物の化石（三葉虫・ウミユリ・スピリファー）から型を取り（型の材料として“おゆまるくん”【HINODEWASHI製造】を使用）、その型を使ってレプリカを作成（“自由樹脂”を使用）した。

また、展示室内の資料の解説、化石のスケッチ、ワークシートの実施などを通して、レプリカを作成する化石についての学習を行なった。



評価：作業や学習の内容自体は、日頃実施しているレプリカ作りに比べるとかなり高度で、実施時間も長かったが、子供たちは最後まで熱心に取り組んでいた。本物の化石を実際に手にしたのが初めての子供たちが多く、非常に感激していた。

レプリカ作りに使用した材料は、市販されているもので比較的手に入りやすいものだったが、レプリカの完成度は高く（細かい凹凸がはっきり出ていた）、子供たちも完成度の高さに感激していた。

課題：子供によって若干の個人差があり、進度を合わせるのが難しかった。

実際に実施してみると、予測していたよりも多くの時間が必要になり、予定していた時間を超えてしまった。

今回が初めての試みだったため若干の問題点は出てきたが、全体としては子供たちにとって非常によい学習機会となったと考えられるので、今後も学習を主体とした内容のものを実施していきたい。

国立科学博物館貸出標本展示

日時：平成15年 随時

場所：地質科学より見た飛騨展示室（体験学習コーナー）

対象：制限無し

参加費：無料

目的：日頃触れることのできない標本に触れていただくことにより、化石や恐竜についての興味関心を促す。

内 容 : 国立科学博物館が実施している“貸出標本”（恐竜の骨・頭骨のレプリカ・始祖鳥の化石のレプリカなど）を展示し、資料によってはハンズオン体験をして（手で触れて）頂いた。

また他の展示物とリンクさせて説明を行ったり、近隣の学校での利用があった場合に参考資料として活用した。



評 価 : 飛騨地域ではなかなか見ることも触れることもない資料のため、子供たちには好評だった。

課 題 : 借用している資料のため、破損などないように扱わなければいけないが、反面子供たちに触れてもらいたい部分もあるので、扱いが難しい。

「みんなで知ろう！ジュラシックワールド」～光記念館～

平成15年度 科学系博物館教育機能活用推進事業

（文部科学省生涯学習政策局社会教育課）

日 時 : 平成15年7月～12月

場 所 : 光記念館・高山市立北小学校

対 象 : 高山市立北小学校 4年生～6年生並びに高山市内の小中学校（14校）

参加費 : 第1回目 500円（すべての学習に参加可能）／
第2回目以降 300円（その都度）

目 的 : 理科離れが進む昨今の子供達に対して、特に実験などの体験的な学習が減少し、理論を主体として学んでいる小学生を対象に、環境・生命について体験的に学習する機会を提供する（全5回）。

地元の小学生に「ジュニアキュレータ」として、当館の学芸員並びに職員と共に各種の体験学習に携わって頂き、主催する側として活躍して頂く事で、より主体的に学習し、ジュラ紀を中心とした中生代（主に飛騨地域）について理解を深め、今後の幅広い理科への興味関心を促す。

また、濱田隆士先生（放送大学教授・福井県立恐竜博物館館長）のご指導により、「鳥類と恐竜」についての学習を最新情報をもとに重ねていく。

内 容 : ○基本的な流れ

①当館学芸員・職員が学校に行き（又は当館に招いて）、授業の一環として「ジュニアキュレータ」への事前学習会（高山市立北小学校4年生～6年生）

を実施。体験学習・意見交換・改善点の確認・質疑応答など。

②光記念館での講演会・体験学習会（ジュニアキュレータの内数名が指導者として参加し、ジュニアキュレータが主体となって実施）。

③反省会（今後に向けての課題の確認）

※①②③の内容を繰り返し実施した。

④成果発表（講演会 12/13）

○ジュニアキュレータの活動記録

4月：打ち合わせ（北小学校の校長先生・教頭先生・担任の先生）

5月28日：遠足を利用して北小学校4年1組の児童にご来館頂き、「ジュニアキュレータ」への動機づけを行なった。参加者：40名

7月15日：北小学校4年1組の児童を対象に恐竜模型作りの事前授業を行い、ジュニアキュレータを募った。参加者：39名

8月22日：北小学校4年1組からのジュニアキュレータを対象に恐竜模型作りの事前学習を行なった。参加者：3名

8月24日：「みんなで知ろう！ジュラシックワールド」第1回目

「恐竜ゼミナール」開催

参加者：25名

他、ジュニアキュレータ：4名／保護者：3名／報道関係者：1名

10月2日：北小学校4年1組の児童を対象に模擬化石作りの事前授業を行い、ジュニアキュレータを募った。参加者：40名

10月6日：北小学校4年1組からのジュニアキュレータを対象に模擬化石作りの事前学習を行なった。参加者：18名

10月11日：「みんなで知ろう！ジュラシックワールド」第2回目

「模擬化石作り体験」開催

参加者：22名

他、ジュニアキュレータ：14名／保護者：8名

10月17日：北小学校5年4組の児童を対象に化石クリーニングに向けての事前授業を行い、ジュニアキュレータを募った。参加者：34名

10月19日：北小学校5年4組からのジュニアキュレータを対象に化石クリーニングの事前学習を行なった。参加者：14名

10月25日：「みんなで知ろう！ジュラシックワールド」第3回目

「化石クリーニング体験」開催

参加者：30名

他、ジュニアキュレータ：11名／保護者：10名

11月18日：北小学校6年3組の児童を対象に化石のレプリカ作りに向けての事前授業を行い、ジュニアキュレータを募った。参加者：39名

11月23日：北小学校6年3組からのジュニアキュレータを対象に化石のレプリカ作り
の事前学習を行なった。参加者：14名

11月29日：「みんなで知ろう！ジュラシックワールド」第4回目

「化石のレプリカ作り体験」開催

参加者：17名

他、ジュニアキュレータ：21名／保護者：6名

12月7日：「濱田先生講演会」に向けてジュニアキュレータと成果発表の打合せを行
なった。参加者：15名

12月13日：「みんなで知ろう！ジュラシックワールド」第5回目

「濱田先生講演会」

講演会においてジュニアキュレータの成果発表を実施した。

参加者：42名

他、ジュニアキュレータ：15名／保護者：21名

評 価：今回は文部科学省の事業ということで、予算のほとんどを文部科学省より頂
けたため、当館の日頃の活動ではなかなか実現できないような内容のものを
実施することができた。

高山市立北小学校との連携により、学校での事前授業やジュニアキュレータ
（子供学芸員）養成を実現することができた。また、主に飛騨地域の化石や
地層についての学習を実施したことにより、子供たちにとって自分達の地域
を知る良い機会が提供できた。

ジュニアキュレータ養成は回を重ねる毎に積極性が増していき、予想してい
た以上に子供たちの成長がみられた。

第2回目以降は高山市教育委員会の「土曜教室」との連携がとれたため、参
加者募集がスムーズだった。

課 題：学校と連携して行なう場合、学校の学習カリキュラムとの擦り合わせが非常に
難しく、本来予定していた内容から変更せざるを得ない部分が多く出てきた。
ジュニアキュレータを募集する際、人数の予測がつきにくいため材料の準備
などに支障が出た。

子供たちに参加したいという意志があっても、交通手段や家庭の事情などに
より参加できないことがあった。

今回、ジュニアキュレータを体験した子供たちの中から、「次はいつジュニ
アキュレータがあるの？」という質問が何件もあった。今後、今回の経験を
生かして何らかの形で子供たちが学習できる機会を提供したい。

第1回目 恐竜ゼミナール 8月24日 （延べ参加人数：74名）

場所…光記念館（地質科学よりみた飛騨展示室/工作室）

時間…13:00～16:00

内容…濱田先生の恐竜のお話・恐竜模型作り・パスポート配付

高山市立北小学校 4年1組

事前学習（光記念館） 7月15日



恐竜ゼミナール 当日 8月24日



第2回目 模擬化石作り体験 10月11日 （延べ参加人数：102名）

場所…光記念館（工作室）

時間…10:30～12:00

内容…地層や化石のできかたを学ぶ・粘土を使った模擬化石作りを体験・始祖鳥についての学習



高山市立北小学校4年1組 事前授業（北小学校 図画工作室）10月2日



ジュニアキュレータ事前学習（光記念館 飛騨展示室） 10月6日



模擬化石作り 当日 10月11日

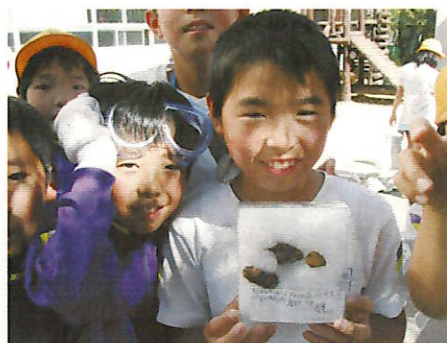
第3回目 化石クリーニング体験 10月25日 （延べ参加人数89名）

場所…光記念館（工作室）

時間…10:30～12:00

内容…荘川村から採取した中生代の化石を岩石から取り出す（岐阜県博物館
地質調査員協力員 杉山政広先生に解説並びに資料同定を依頼）

荘川村から発見されたヴェロキラプトルの学習を通して、同じ種類の羽毛を
持った恐竜（ドロマエオサウルスなど）についての学習



高山市立北小学校5年4組 事前授業（北小学校 教室／中庭） 10月17日



ジュニアキュレータ事前学習（光記念館 サンクンガーデン） 10月19日



化石クリーニング 当日 10月25日

第4回目 化石のレプリカ作り体験 11月29日 （延べ参加人数：98名）

場所…光記念館（工作室）

時間…10:30～12:00

内容…本物の化石からレプリカを作るまでを体験する・鳥類と恐竜の最新情報についての学習



高山市立北小学校 6年3組 事前授業（北小学校 理科室） 11月18日



ジュニアキュレータ事前学習（光記念館 工作室） 11月23日



化石のレプリカ作り 当日 11月29日

第5回目 濱田先生講演会 12月13日 （延べ参加人数：93名）

場所…光記念館（ピラミッドホール）

時間…10:30～12:00

内容…濱田先生による講演（ジュニアキュレータへの評価・羽毛の生えた恐竜について）・ジュニアキュレータによる成果発表・質疑応答・ワークシート（地質科学よりみた飛騨展示室）



濱田隆士先生講演



ジュニアキュレータ成果発表



質疑応答



ジュニアキュレータ作品展示



ワークシート



濱田先生よりサインを頂く

縄文アクセサリー作り

日 時 : 平成14年5月21日～9月2日の日曜日 ①11:15～②14:00～

場 所 : 企画展示室

対 象 : 小学生以上

参加費 : 無料

目 的 : 縄文人が使っていたアクセサリーを作ることを通して、縄文人の生活について学習する。

内 容 : オープンねんどを使って、縄文人が身につけていたアクセサリー（勾玉^{まがたま}など）を制作。小冊子のクイズや縄文人度チェックなどをしながら縄文人の生

活についての理解を深めた。



評 価 : 誰でも簡単にきれいなアクセサリが作れ、また完成度も高いため、参加者は一様に喜んでいました。この縄文アクセサリ作りを通して、参加者が縄文人に興味を持つことができ、縄文人の生活についての学習がスムーズに実施できた。小冊子の内容が非常に良く、クイズなど誰でも抵抗なく学習することができた。

課 題 : 勾玉の形を作るのは小学校低学年には難しいので、もっとつくりやすい形を年齢に応じて考える。小冊子を使った学習は様々な年齢層が集まった場合、全員に理解してもらうのは難しい。

シャコちゃんお面作り

日 時 : 平成14年5月21日～12月23日の日曜日 ①11:15～②14:00～

場 所 : 平成14年5月21日～9月2日は企画展示室、それ以外は人類史展示室

対 象 : 制限無し

参加費 : 無料

目 的 : だれでも簡単にできる遮光器土偶のお面を、縄文人が利用していた自然素材を用いて作ることで、縄文人の生活へ興味をもてるようにする。

内 容 : 遮光器土偶の顔の形をした台紙に、自然素材を貼り付けて遮光器土偶のお面を作成した。



評 価 : だれもが気軽に体験することができるので、たくさんの方が体験できた。自然素材を使用することによって、縄文人が自然と共に生活していたことなどを知って頂くことができた。お面作りを通して、縄文人の生活に全く興味のなかった方が興味を持つきっかけとなった。

課 題 : 多種類の自然素材を常に準備しておくことが難しかった。縄文人の生活について触れないと、単なるお面作りで終わってしまう。

第1回 火おこし道具作り（夏休み特別期間）

日 時 : 平成14年8月13・14・15日 ①11:15～②14:00～

場 所 : 工作室ピラミッドホール、1F中庭

対 象 : 小学4年生以上

参加費 : 500円

目 的 : 「縄文の耀き展」に合わせ、縄文人の生活を体験することで縄文人をより身近に感じて頂く。

内 容 : ①火おこし道具の種類、縄文人の火の利用方法などを学習した後に火おこし道具（舞ぎり式）を作り、実際に火を熾もこすという体験をした。



評 価 : 保護者の援助により、1グループに1、2人が火おこしに成功。係員がすべて準備を行なったので、参加費が500円という低コストで開催できた。大半の参加者は火おこしが初めてであったため、とても興味深く取り組んでいた。

課 題 : 道具・素材・方法を見直し、小学生レベルで火おこしが成功するよう調査・研究が必要。第1回目ということもあり、道具の確認不足があった。年齢によって能力にかなりの差がみられた。

浮世絵版画（北斎と広重展体験学習）

日 時 : 平成15年2月26日～5月18日 常時体験可

場 所 : 企画展示室

対 象 : 年齢問わず

参加費 : 無料

目 的 : 版画の工程を楽しみながら簡単な多色刷りを学習する。

内 容 : 葛飾北斎「富嶽三十六景」の中から「凱風快晴」をもとに作成した版木を使い三色刷りを行なった。



行程1

行程2

行程3

評 価 : 実際に摺り体験を行なうことで、版面に興味や理解を示す方が増えた。当時は彫師、刷師などが分業で行なっていたことが理解できた。

課 題 : 係員が常時必要だった。子供が一度に大勢来た際、騒がしくなってしまった。

日本画塗り絵（お盆特別期間体験学習）

日 時 : 平成15年8月9・12・15日 11:15～（参加者：23名）

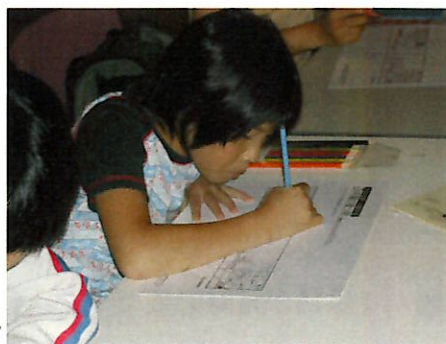
場 所 : 常設展示室

対 象 : 年齢問わず

参加費 : 無料

目 的 : 実物資料を観察することで絵に興味を持たせる。自由に色を塗ることで創造力をのばす。

内 容 : 桃山時代の屏風絵「誰が袖図屏風」を実際に見ながら、色鉛筆で自由に塗り絵を行なった。



評 価 : 本物をじっくりと観察する事で絵の描き方に興味を持った。実物にとらわれず自由な発想で色をぬる事ができた。

課 題 : 絵が細かく仕上がり時間がかった。参加希望者は幼稚園児から小学校低学年が多かった為、絵柄がもう少し単純明解なものでもよかった。

大きな書を書いてみよう（お盆特別期間体験学習）

日 時：平成15年8月9・12・15日 14:00～（参加者：24名）

場 所：工作室

対 象：年齢問わず

参加費：500円

目 的：文字の形に意味を持たせて書く事で現代書を学ぶ。創造性を育み、書に親し
みを持たせる。書を書く楽しみを味わう。

内 容：大型の現代書を参考に書の説明をした。105×135 c mサイズの半紙に大き
な筆で自由に書いた。



評 価：一文字を短時間で一気に仕上げる事で集中力を養うことができ、また文字の
形に意味を持たせて書くという現代書を体験することができた。

課 題：和紙を使用した為、参加費が高くなった。準備に時間がかかった。スタッフ
を5名要した。

型絵染疑似体験（人間国宝 芹沢銈介展体験学習）

日 時：平成15年9月11日～12月23日 常時体験可

場 所：企画展示室

対 象：年齢問わず

参加費：無料

目 的：型絵染の理解を深める。

内 容：用意された型を使用し、和紙に染めつけた。

評 価：想像力を働かせ、型を組み合わせる事で楽しみながら体験できた。型絵と型
絵染の違いが分かった。型絵染の工程について理解が深まった。

課 題：係員が常時必要だった。使用頻度が高いため、型の損傷が激しかった。



オリジナルマヤカレンダー作り

日 時 : 平成15年2月26日～12月23日の間 常時

場 所 : 平成15年5月27日～9月2日は企画展示室、それ以外は人類史展示室

対 象 : 小学生以上

参加費 : 無料

目 的 : マヤ文字とマヤの暦（農耕暦）の学習

内 容 : 西暦の日付をマヤの農耕暦の日付に換算し、台紙にマヤ文字スタンプを押して、オリジナルのマヤカレンダーを制作した。



評 価 : 子供から大人まで、多くの人に楽しく参加して頂けた。自分の誕生日などの日付をマヤの暦に変換するということに興味を持つ方が多く、スタンプを押すという簡単な行為とそれほど時間を要しないことも取り組んで頂きやすかったと考えられる。

課 題 : マヤカレンダーの説明パネルだけでは理解が難しく、説明を必要としたため、係員が常時必要であった。

マヤのはがき・しおり作り

日 時 : 平成15年5月27日～7月13日の日曜日 11:15～

場 所 : 企画展示室

対 象 : 制限無し

参加費 : 無料

目 的 : マヤで使われた基本の5色（赤・白・黄・緑・黒）を学習し、マヤ文字やマ

ヤの造形に対して興味や関心を持たせる。

内 容 : マヤ文字や拓本のスタンプを押し、カラフルな紙やリボンを用いてマヤの織物をイメージしたはがきやしおりを制作した。



評 価 : 意外に大人が真剣に参加していたのが目立った。材料は余り紙などの廃材を利用し経費を省いた。

課 題 : 解説付マヤカレンダー体験学習と同時開催のため、係員の対応が細部まで行き届かなかった。

ミサンガ作り

日 時 : 平成15年7月20日～8月10日、8月24日～12月21日の日曜日 11:15～

場 所 : 平成15年7月20日～9月2日は企画展示室、それ以外は人類史展示室

対 象 : 小学4年生以上

参加費 : 無料

目 的 : マヤの時代から今日まで伝わっている編み方を学習する。

内 容 : 毛糸を使ってマヤ人が身につけていたミサンガを制作した。



評 価 : 親子で楽しく取り組んでいた光景が目立った。参加者が女性に偏るようだった。

課 題 : 小学生の参加者が多く、中には所要時間が60分を超える人もいた。その分達成感があり、喜びの声も多く聞かれた。

マヤ文明のアクセサリー作り

日 時 : 平成15年7月20日～8月10日、8月24日～9月2日の日曜日 11:15～

場 所 : 企画展示室

対 象 : 小学生以上

参加費 : 無料

目 的 : マヤの人たちが身近な素材をアクセサリーにしていたことを学習する。

内 容 : 貝殻を使ってマヤ人が身につけていたアクセサリーを制作した。



評 価 : 細工が簡単にでき、アクセサリーとして特に女の子に人気があった。参加費が無料のため、天然素材や廃材を利用して費用がかからないように努めた。岐阜県は海が近くにいるせいか、貝がらに普段接していない小さな子供に喜ばれた。

課 題 : ミサンガ体験学習と同時開催のため、係員の対応が細部まで行き届かなかったことが多かった。

オルメカ福笑い

日 時 : 平成15年5月27日～9月2日の間 常時

場 所 : 企画展示室

対 象 : 制限無し

参加費 : 無料

目 的 : 福笑いという遊び感覚で、特に低年齢層にマヤ文明を印象づける。

内 容 : オルメカ時代の巨石人頭像の顔面（鉄板）に、マグネットシートを用いた目・鼻・口などのパーツを自由に配置した。



- 評 価 : 福笑いとしての面白さがあり、個性的でさまざまな人頭像の顔ができていた。
マヤ文明のイメージのひとつとして残れば成功といえよう。
- 課 題 : 低年齢層向けの体験学習を増やす必要性がある。

マヤ文明の衣装を着けて記念撮影

- 日 時 : 平成15年5月27日～9月2日の間 常時
- 場 所 : 企画展示室
- 対 象 : 制限無し
- 参加費 : 無料
- 目 的 : 現在のマヤの衣装を身に着けることにより、着心地や素材、デザインなどについて学習する。
- 内 容 : マヤ先住民の人々が織ったウィピルや装飾品を身に着け、マヤの遺跡のグラフィックを背景に写真を撮影した。



- 評 価 : 恥ずかしがり屋の日本人には抵抗があるように見受けられた。見学者への誘導の表示、係員の声かけなどが必要であった。家族連れやグループ・団体で来られた方々には記念写真として人気が高かった。
- 課 題 : 衣装に付随した飾りの素材をより自然な素材にする必要がある。

ペーパークラフト作り

- 日 時 : 平成15年7月20日～8月10日、8月24日～12月21日の日曜日 14:00～
- 場 所 : 平成15年7月20日～9月2日は企画展示室、それ以外は人類史展示室
- 対 象 : 小学4年生以上
- 参加費 : 無料
- 目 的 : マヤ建築の形式や特徴を立体的に学習する。
- 内 容 : マヤの建造物3つ（エル・タヒンのピラミッド、ウシュマル総督の館、ティカル2号神殿）のペーパークラフトから1つを選んで制作した。
- 評 価 : ペーパークラフトという手軽さから幅広い年齢層に人気があった。建物の特徴が自然に理解できた。カッターナイフの使用技術の向上にも繋がっている。

課 題 : 小学生には少し難易度が高い。もう少し簡単なものを増やす必要がある。



第2回火おこし道具作り（夏休み特別期間）

日 時 : 平成15年8月11・14・17日 ①11:15～②14:00～

場 所 : 工作室、サンクンガーデン

対 象 : 小学4年生以上

参加費 : 1,000円

目 的 : 大昔の火おこし方法を知り、火おこしの道具と火おこし体験を通じて火の大切さ、火おこしのたいへんさを学習する。

内 容 : 火の利用方法や火おこし道具の種類などを学習した後に、火おこし道具（舞ぎり式）を作り実際に火をおこした。



評 価 : 開催2年目で前回からのノウハウを活かして、参加者全員が火おこしに成功した。火がおきた時の感激・感動は非常に大きなものであった。

課 題 : 材料の調達や素材について更に調査し、ミュージアムショップでの販売に繋げる。より少人数のスタッフで開催できるよう工夫が必要である。

宇宙服を着てみよう（記念撮影：毛利館長の部屋展 開催期間）

日 時 : 平成15年11月、12月

場 所 : 古代からのメッセージ展示室前

対 象 : 身長150cmまでの小・中学生

参加費 : 無料

目 的 : 青少年に対して、宇宙科学について夢とあこがれを持って頂く機会を提供す

る。

内 容 : 子供が子供用宇宙服（レプリカ）を着用し、毛利衛宇宙飛行士の写真ボードと記念撮影をする。



評 価 : 山村の高山市での宇宙服着用（レプリカ）の体験は、めずらしさ、好奇心を満足させ、好評であったと思う。

課 題 : 記念撮影をした家族は大変喜ぶのだが、宇宙服の借用期間が短かった為、多くの方に体験学習の機会を提供できなかった。

[5] 広報・宣伝活動

1. 広報・宣伝用印刷物の作成

各特別企画展毎に広報・宣伝用印刷物を作成している。

平成 14・15 年度開催の特別企画展毎の広報宣伝用印刷物

「縄文の耀き」展

B2判ポスター	5,000枚
A4判チラシ	50,000枚

「今井俊満展 ～花鳥風月～」

B2判ポスター	2,000枚
A4判チラシ	20,000枚

「北斎と広重展 ～天才浮世絵師とその一門～」

B2判ポスター	1,500枚
B3判ポスター	600枚
A4判チラシ	35,000枚

Ⅲ、平成 16 年度事業計画

5月 2日（日） 横山大観とその時代展 特別解説

講師：当館学芸員

5月 4日（火） 演奏会

5月29日（土）～9月5日（日）

恐竜展

美術常設展 夏の展示

5月30日（日） 『古代日本のあけぼの～縄文・弥生・古墳～』講演会

講師：岡田康博先生

（文化庁 文化財部 記念物課）

6月 5日（土） 古代からのメッセージ講演会

講師：辻 維周

8月 7日（土） 恐竜ゼミナール

講師：濱田隆士先生

（放送大学教授、東京大学名誉教授、福井県立恐竜博物館館長）

8月14日（土） 演奏会

8月22日（日） エジプト文明講演会

講師：村治笙子先生

（古代オリエント学会正会員、エジプト・アラブ文化研究会副会長）

9月18日（土）～11月14日（日）

須田剋太展

9月18日（土）～12月23日（祝・木）

美術常設展 秋・冬の展示

ご利用案内

開館時間 = 午前 10 時～午後 5 時（入館は午後 4 時まで）

休館日 = 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）

冬期間（12月24日～2月25日）

展示替え期間

入館料 = 大人：900 円 (700 円)

高・大学生：700 円 (500 円)

小・中学生：300 円 (200 円)

※ () 内は割引券および 20 名以上の団体料金

所在地 = 岐阜県高山市中山町 175 TEL : 0577-34-6511 (代)

交通手段 = J R：名古屋駅から高山本線（約 2 時間 20 分）

高山駅下車、濃飛バス光記念館線 20 分、タクシーで約 7 分

お車：東京方面から、長野自動車道松本ICより約2時間

大阪方面から、東海北陸自動車道飛驒清見 I Cより約 20 分

富山方面から、国道 41 号線で約 1 時間 45 分

(無料大駐車場完備)

レストラン＝ 館外：ビラコチャ 108 席

TEL • 0577-32-8072

館内：日玉の里（10名以上の予約制） 82席

TEL • 0577-32-8139



光記念館 年報 3号(平成14・15年度)

発行者 光記念館

館長 岡崎 功

岐阜県高山市中山町 175

TEL:0577-34-6511

FAX:0577-34-6065

印刷所 光記念館

発行日 平成16年3月31日